

有塚組合長は、新型コロナウイルスの感染拡大に触れ、「国内自給率を高めることが急務だ。とりわけ十勝の農業が大きく期待される時代を迎えた。強い農業、農協の強い体質構造づくりに、一丸となって取り組みたい」とあいさつした。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面を中心に議決し、総代183人のうち180人（書面議決を含む）が出席した。

販売高0.6%減 315億円 生乳は過去最高 J A十勝清水町

2021年6月11日

J A十勝清水町（氷見隆雄組合長、正組合員445人）の通常総会が10日、同J Aで開かれた。2020年度の農畜産物販売高は、コロナ禍による肉用牛の価格低下などの影響を受けながらも、過去最高だった前年度に匹敵する315億9,500万円（前年度比0.6%減）を確保した。

生乳生産量は14万5,887トン（1.6%増）で前年度に引き続き過去最高を更新。販売高は136億1,100万円（1.6%増）だった。肉用牛は取扱頭数が2万8,133頭（5.4%増）となったが、販売高は87億4,800万円（7.5%減）と前年を下回った。

畑作では、コロナの影響で小豆価格が下落したが、バレイショも含め野菜類の価格が堅調で、農産物販売高は65億9,100万円（4.5%増）となった。

経常利益は2億6,505万円、当期末処分剰余金は2億3,921億円を計上した。

総会は書面議決を中心に開催した。役員改選で氷見組合長を再任。地域農業振興J A中長期5カ年計画を策定した。氷見組合長は「新たな振興計画を基本に、次世代を見据えた農協経営を行っていく」と述べた。

総生産3%減34.9億円 ブロッコリー販売過去最高 J A木野

2021年6月16日

J A木野（清都善章組合長、正組合員156人）の通常総会が15日、同J Aで開かれた。2020年度の農産・青果・畜産の総生産額（交付金、補給金など含む）は、前年度比3%減の34億9441万円だった。また、辰尾繁好専務（68）が健康上の理由により任期途中で退任することに伴い、西川万蔵参事（48）を新理事に選任した。任期は来年6月の役員改選まで。

青果は相場高で推移し、6.3%増の13億7106万円。主力のブロッコリーの販売高は6億3800万円（4.4%増）と過去最高を記録した。

農産物は天候不順により各作物の生育に影響が出たため、5.9%減の16億9670万円（経営所得安定対策交付金含む）。酪農・畜産は生乳が2.4%増の2億7723万円。家畜の個体販売はコロナ禍の影響もあり、17.4%減の1億1216万円だった。

事業総利益は5.5%減の7億8975万円、税引き後の当期剰余金に前期繰越剰余金などを加えた当期末処分剰余

金は5.1%増の1億9017万円。

子会社のハピオは、生活事業で「ハピまん」が発売以来2年で24万個を販売するなど、売上高は同0.1%増の27億86万円。燃料事業の売上高は14.8%減の8億9134万円だった。

総会は新型コロナ対策で書面を中心に議決し、133人が出席した。清都組合長は「コロナ禍の中で団結して良い年にしたい」とあいさつした。

粗生産額14億円減 天候不順やコロナ影響 J Aめむろ

2021年6月17日

J Aめむろ（宇野克彦組合長、正組合員577戸）の通常総会が16日、同J A本部事務所で開かれた。2020年度の農業粗生産額は天候不順やコロナ禍が大きく影響し、前年度から14億円減少の297億円だったが、生産額自体は19年度に次ぐ過去3番目に高い記録となった。

積雪が少なかったことでナガイモの一部のほ場では冷害が見られ、4月中旬以降は低温と降雨が続いたため春耕期の種まき作業に遅れが生じた。一転して5月中旬以

降はほとんど降雨がなく、豆類やコーンが出芽不良となったが、作物全般の収穫量はジャガイモを除いておおむね平年並みとなった。